

市民一人ひとりが幸せを実感できるまちづくり

ワンチーム 宇土 One Team 宇土

宇土市政第6章始動

第6代宇土市長に就任した光井正吾市長。

就任式で光井市長は、「『何のために』を常に問い直し、市民のため、未来のために行動する組織でありたい。信頼を土台に、市民・民間・行政がともに手を取り合うワンチームで進んでいこう」と協働を呼びかけました。今回の特集では、対話と信頼を掲げる新市長の思いや素顔をお伝えします。



Profile 光井 正吾 (55歳)

昭和46年1月18日生まれ。平成5年の宇土市役所入庁以来、まちづくり推進課長・財政課長・総務課長・企画財政部長・副市長を歴任し、令和8年4月29日、第6代宇土市長に就任。座右の銘は「相互尊重」。

——市長、ご就任おめでとうございます。今、改めてどのようなお気持ちでしょうか。

市民の皆様から重い負託をいただき、その責任の重さに身が引き締まる毎日です。今回は無投票での当選であり、「直接思いを伝える機会が限られてしまった分、皆様を何を期待し、どんな不安を抱えているのかを、真剣に汲み取らなければならない」。今、その決意を新たにしているところです。

——どのような思いで、これからの市政を担っていかれますか。

私の揺るぎない軸は、「市民一人ひとりが幸せを実感できるまちづくり」です。単に体が健康であるだけでなく、心から「宇土に住んでよかった」と感じられる、そんなまちを目指しています。歴代の市長も同じ思いで尽力されてきました。その歩みをしっかりと引き継ぎ、皆様とともに、次の時代の宇土市を築いていきたい。挑戦を続ける覚悟です。

——本市が解決すべき「課題」については、どう捉えておられますか。

やはり一番の壁は「人口減少」です。これは本市にとって避けては通れない最重要課題です。そこから広がる一

次産業の担い手不足、公共交通の運転手不足など、暮らしに直結する問題が山積しています。この現状を、私たちは正面から直視しなければなりません。

——その課題を、どう乗り越えていられるのでしょうか。

解決の糸口は、やはり「現場」にあります。私自身はもちろんですが、市役所の職員一人ひとりが、これまで以上に地域の方々の声に耳を傾ける心構えを持つ必要があります。自ら地域へ出向き、皆様に寄り添って、一緒に頭を悩ませ、手立てを考える。そのプロセスの中にこそ、本当の答えが隠れていると信じています。

——特に力を入れて取り組みたい分野を教えてください。

特に「心と体の健康増進」「子育て支援」「財政基盤の安定・強化」の3つに注力します。

スポーツの機運を健康づくりに活かす環境づくりはもちろん、子育て支援については、単なる制度の提供だけでなく、心に寄り添う支援、相談体制を充実させたいです。また、将来にわたって宇土市を守るためにも、無駄を省いた強い財政と組織を築いていきます。どんな時でも、市民の皆様の手を繋ぎたいです。

——10年後、20年後の宇土市を、どんな姿にしていきたいですか。



①宇土御獅子舞保存会の警固において地域伝統文化の継承にも力を入れている②趣味のソフトテニス。高校時代全国高校総合体育大会(インターハイ)で団体優勝した経歴を持つ。さらに、平成5年～令和6年の32年間は鶴城中ソフトテニス部の外部コーチとしても活躍した。③清掃などの地域活動は現在では趣味の一つになっている。④健康のために続けているウォーキング。市長就任後慌ただしい日々が続く中、時間を見つけて継続している。

相互尊重

光井正吾